
災害時における施設間のスタッフ連携

～アンケート調査を実施して～

藤本 誠、小場幸恵、工藤麻利、小番 吏、小南敦子、土田カヨ子、佐藤輝子、伊藤恵子
渡部瑞恵、河村美貴子、勝又麻子、水木麻衣子、渡邊明日香、五十嵐伴子、佐藤良延
おのば腎泌尿器科クリニック

Staff cooperation between dialysis facilities at the time of disasters

Makoto Fujimoto, Yukie Oba, Mari Kudo, Tsukasa Kotsugai, Atsuko Kominami,
Kayoko Tsuchida, Teruko Satoh, Keiko Ito, Mizue Watanabe, Mikiko Kawamura,
Asako Katsumata, Maiko Mizuki, Asuka Watanabe, Tomoko Igarashi, Yoshinobu Satoh
Onoba Nephro-urological Clinic

〈諸言〉

3月11日の東日本大震災直後から当クリニックは停電により透析が行えない状態であった。そのため翌12日に市内4施設に臨時透析をお願いした。その後、ある患者から「クリニックのスタッフが付き添ってくれて安心して透析が受けられた」などの声を頂いた。そこで震災時の対応を振り返り、クリニックと基幹病院のスタッフがどう連携すべきかアンケート調査を行った。

〈対象・方法〉

当クリニックのスタッフ13名と12日に臨時透析を行った患者13名、また臨時透析を依頼した4施設の臨床工学技士管理者にアンケート調査を行い、全員から回答を得た。

震災発生時は1部・2部の9名が透析中であった。揺れが収まってから、通常通り返血を行った。透析経過時間や採血データなどから5名を透析不足と医師が判断し、夜間で透析予定だった7名と曜日変更して中2日になる1名と合わせて、13名を12日の臨時透析対象とし、当日は各施設にスタッフ2名が同行した。

〈結果〉

当院スタッフへの調査結果は、臨時透析を依頼した立場・依頼される立場どちらのケースでも、連携は治療に何等かの形で関わるべき46.2%、治療中付き添うべき23.0%と、その他相手先施設の指示に従う15.4%などと合わせて85%のスタッフが治療に関わるべきと回答した(図1)。今回の震災で連携がよかった事は、「相手施設のスタッフがクリニックに足を運んでくれ相談でき良かった」などの回答が、課題としては「様々なケースを想定した対策を考えたり、災害時に患者不安を

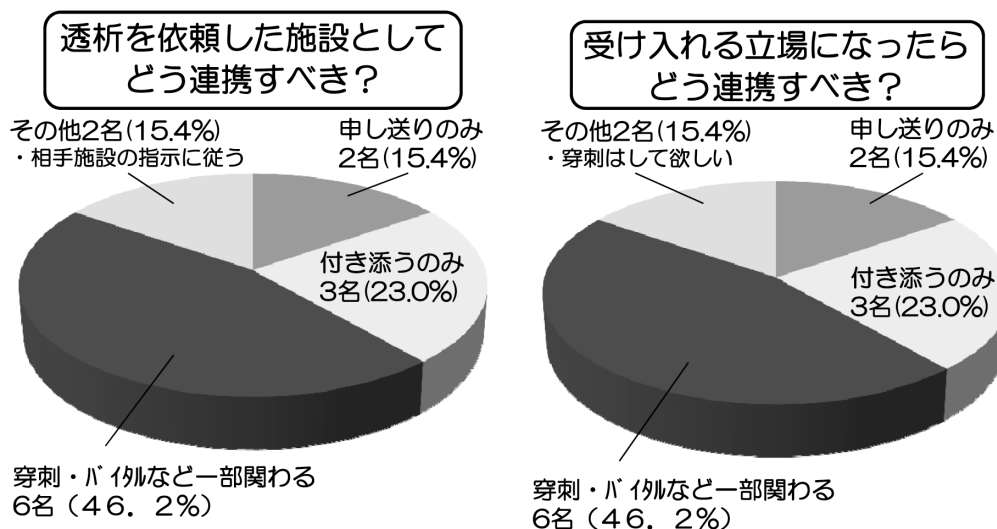


図1 スタッフへの調査結果

軽減できる関わり方を心がける」などが挙げられた。

患者への調査では、臨時透析への不安は無いという回答が61.5%と多く施設間スタッフ連携については、付き添いや治療に一部関わる、合わせて60%を超える結果であった。具体的には穿刺に対する不安が強く、穿刺をクリニックのスタッフに行って欲しいと考えていた（図2）。臨時透析を行い感じた事では、スタッフが付き添い穿刺を行った事で安心感が得られた、透析時間が短くなり透析不足を懸念し意識的に水分・食事の摂取が減り体調を崩したという声もあった。

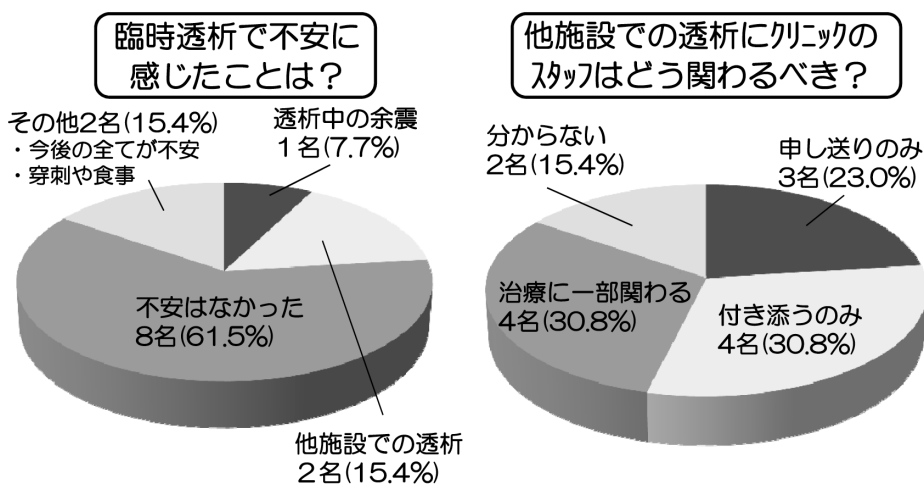


図2 患者への調査結果

依頼施設の技士への調査では普段の透析と比べると多少混乱があった様である。受け入れ時に困った事では、透析条件確認・除水設定や穿刺との回答がそれぞれ2施設あった（図3）。連携については臨時透析を受け入れた立場・依頼する立場共に全ての施設が治療には関わるべきと回答した（図4）。施設連携で良かった事は、スタッフが付き添った事で、透析条件などの情報がスムーズに伝わり、患者が安心して治療を受けられた、面識あるスタッフが来てくれ意思疎通や手技の連携が円滑であった、穿刺から回収まで行ってくれスタッフの疲労が最小限で済んだとの回答があった。

今後の課題として入室時間の調整や物品の確保、患者の交通手段の確認、患者情報の円滑な提供などの問題があげられた。

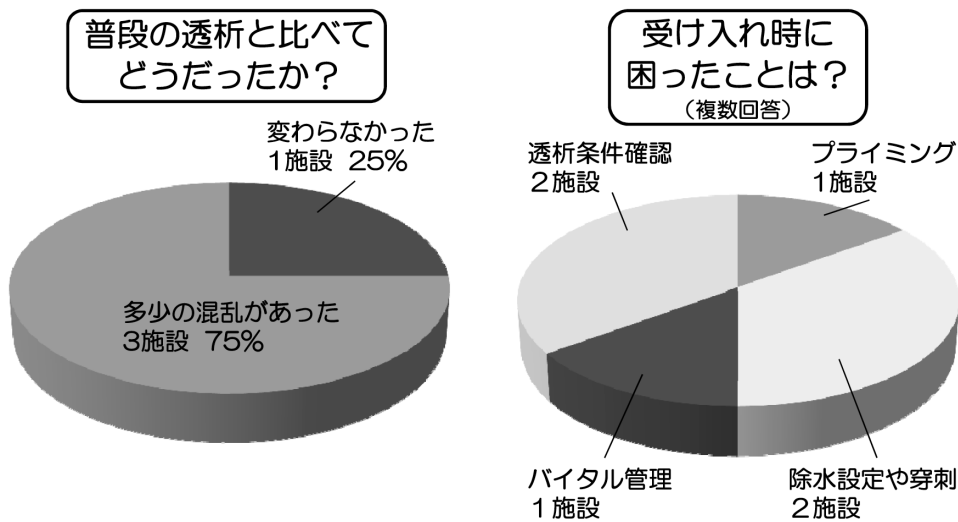


図3 依頼施設の技士への調査結果

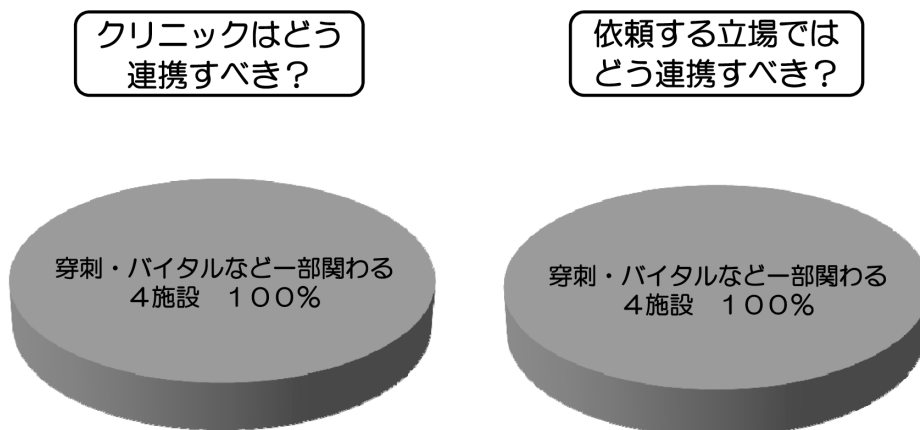


図4 依頼先施設の技士への調査結果

〈考察〉

どの立場でも透析に付き添いや穿刺など何等かの形で関わるべきと考えていた。しかし施設によって装置や物品、準備の仕方が違う。仮に治療に関わった場合、責任の所在を明確にするなど課題は多くあるが、連携して治療に関わることは有益と考えていた。今回当院は患者の振り分けを主に導入施設にしたことで、患者の不安軽減につながった。今後は災害の程度に応じたマニュアル等の作成を行い、まずスタッフの顔を知る事が必要である。

〈結語〉

今回の震災を経験して、施設間連携が非常に重要である事を改めて感じた。臨時透析を依頼する場合、患者情報提供や引率だけでなく可能な限り治療に関わる事が患者の不安軽減、依頼先スタッフの負担軽減にもつながると感じた。施設間の情報共有を密にして、災害時は施設の垣根を越えて、協力して対応する事が重要である。